

平成 27 年度第 2 回日田市総合教育会議（議事録：要点）

- 1 開催日時 平成27年11月21日（土）13：00～
- 2 開催場所 パトリア日田 2階ポポロ
- 3 議 題
  - （1）日田市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（日田市教育大綱）について
  - （2）教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価報告書について（報告）
  - （3）その他
- 4 出席委員  
原田市長、永山委員長、諫本委員長職務代理者、岡部委員  
佐藤委員、木下委員、三笥教育長
- 5 会議に出席した事務局職員  
企画振興部長、企画課長、同主幹（総括）、同主査  
教育次長、教育総務課長、同主幹（総括）、同主査
- 6 傍聴者  
なし
- 7 議事の経過 別紙のとおり

## 協議事項

議題 (1) 日田市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱  
(日田市教育大綱) について

事務局説明：○教育大綱策定の趣旨

- ・教育大綱においては、地域住民の意向のより一層の反映と、地方公共団体における教育、学術及び文化の振興に関する施策の総合的な推進を図るため、首長にその策定が義務づけられている。
- ・この大綱は、教育基本法に定める教育振興基本計画を参酌しながら策定するとなっており、大綱が対象とする期間は、おおむね4年から5年程度を想定している。

○教育大綱の計画期間と位置づけ

- ・日田市においては、最上位計画として、日田市総合計画があり、日田市教育行政実施方針との整合性も図っている。第5次日田市総合計画および、日田市教育行政実施方針は平成24年度から平成28年度が計画期間となっている。よって、来年度、平成28年度には、総合計画、教育行政実施方針ともに策定替の準備の年を迎えることから、今回策定する日田市教育大綱の計画期間は平成28年度から平成31年度までの4カ年とし、それらの計画と整合性の取れるものとした。

○日田市教育大綱策定の考え方

教育行政実施方針における平成19年度から平成23年度の基本目標である「明日の日田市を築く心豊かな人づくり」と現在の教育行政実施方針の基本目標である「心豊かで輝く人の育つまちづくり」及び施策の柱である「文化芸術の振興」「社会教育の充実」「学校教育の充実」「スポーツ・レクリエーションの振興」「市民とともにつくる教育行政の推進」に基づき大綱をイメージした。

このイメージをたたき台として御意見や具体的に盛り込む内容を頂戴したい。

意見（市長、委員）：○大綱の“かたち”について

- ・「家庭教育の支援」「学校教育の充実」「社会教育の充実」などの大きな項目とする場合や、また、「地域とともに歩む教育」「スポーツ・レクリエーションの振興」など具体的な言葉でまとめる考え方がある。
- ・大綱はわかりやすく簡潔に作るものだと思う。

○基本理念について

- ・基本計画の項目をすべて網羅するような文言とするべき。会社でたとえれば経営理念にあたる。市民の方には経営理念を見ていただいて、基本的な具体的なことについては、基本計画をじっくり見ていただく。基本理念にちょっと重きを置いてほしい。
- ・教育委員会制度が今年から変わり、市長がこの教育大綱をつくられるということで、新しいものを理念として掲げたほうが望ましいと思う。「まちづくり」から「ひとづくり」ということで、新しいものを理念として掲げたほうが望ましいと思う。それが、来年度策定する総合計画や実施方針に連携してくる。これまでの理念は、たすきとして受け継ぎながら、この次の区間を私たちは走っていくということになると思う。

まち・ひと・しごと総合戦略で言えば、いかに日田市を消滅させず持続していくか、あるいは活性化していくかということについても、教育も受け持っていかなければいけないと思う。ふるさと日田に、子どもも大人も誇りを持ったり、愛着を持ったりするような教育行政というのは大事だと思う。

#### ○基本方針について

- ・例えば、虫歯の数が大分県は全国ワースト3という話を聞いている。そういう現在の課題に対する行政の後押し等について形が見えるものなど考えられる。
- ・子育て中の保護者あるいは地域の方々が夢を持ってこの地域に住んでよかったと思えるもの。他市の例では「夢を描き、実現できる子どもの育成」や「子育てにやさしいまちづくり」など良い言葉だと思う。
- ・歴史的文化遺産の活用など盛り込めれば、日田であれば咸宜園を生かした教育などが考えられる。
- ・教育は、将来、未来への投資で、未来を見たときは、国際化などの中で子供たちが大きくなっていく。子供たちには夢を持ってほしいとか、たくましく育ててほしいとか、知徳体のバランスのとれた子供、そういうことを願っている気がする。
- ・県などは「グローバル社会に生きる総合力」という言葉を使っているが、その根本が、「ふるさとを誇りに思う」「愛着を持つ」などそういうもの。その地域とともに歩む学校とうい、そういうキーワードみたいなものが幾つかあると思う。
- ・子どもの教育の充実という難しい言葉を使うより「学校

はその地域の核です」「子供は地域の宝物」などが伝わるような言葉であると思う。学校教育、社会教育、全部に通用する。一般の市民が見たときに、「日田の教育っていいね」と言ってもらえるような何か言葉を探すことが大事。

- ・文化芸術振興については、文化財の保存と活用が主になっているが、芸術の振興などで若い方が日田に来てこんなことをやってみたい、または、やっているのを応援して、いろんな方がそれを見に来るみたいなことを、伸ばすということも入れていければと思う。
- ・自治基本条例を市民や議会市長とがそれぞれの責任を明確にしながら作ってきたということからいけば、市民がこれまで以上に保護者という立場だけではなく参加してもらうこと、コミュニティスクールといったものを盛り込んでいくことも大切ではないか。
- ・保護者や地域と一緒に学校運営にかかわるということは大きな変化で、それを学校が受け入れ、地域の問題を前向きに捉えられるというのがコミュニティスクールを考えようとするときに大事ではないか。そういう点を優しい言葉で絡めてあげるのが良いのでは。

まとめ : 教育大綱については、御意見をいただいたものを事務局でまとめ、次回、案として提示する。

議題 (2) 教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価報告書について (報告)

事務局 : この報告書は、地教行法第26条で、教育委員会が毎年実施することが定められており、教育行政実施方針について点検評価を行ったもの。点検評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験を有する方々から客観的に評価をいただいております、別府大学の豊田寛三学長、大分大学の山崎清男教授、佐賀大学の上野景三教授の3名に評価をいただいている。

その内容について、本編の75ページ以降に、教育委員会で行った事務事業に対して評価をいただいている。評価をいただくに当たり、8月に教育委員さんにも御同席をいただいた。

豊田寛三学長からは、教育委員会の活動、運営では、教育委員を今回2名増員したことについて、教育委員会の繁忙さや、より広く民意を反映させるという点からすると、妥当な措置であるということ。今後、総合教育会議で、教育委員会の活性化に寄与していただきたいという意見や、咸宜園で廣瀬淡窓先生が行った教育理念や教育方法を、現代の公教育に生かすには何をどう行うのかを、今後とも学校現場が咸宜園教育研究センターなどと積極的に連携して取り組んでいただきたいというような御意見をいただいた。

山崎教授からは、コミュニティスクールについて、地域と連携した学校づくりの推進で、コミュニティスクールの創設が進められているが、その組織づくりが十分に進展していないことから、評価がBとしていることに関して、コミュニティスクールは、地域社会とのかかわりの中で学校改善を考えるという意味では、今後さらに重要な課題になってくると思われる。その設置には十分配慮して進められることが重要であるとの御意見をいただいた。

佐賀大学の上野教授からは、学校教育の充実については、中学校の学力に関して、学期ごとの検証と改善に対する抜本的な対策が必要であるというような御指摘をいただいた。

一方で上野教授は、社会教育が御専門であることから、中央公民館の充実や、公民館運営事業団への指導を含めた総合的な人材の育成についてや、図書館における利用促進に向けた手当などの御指摘もいただいている。

今後、留意が必要な事項として、1点目は、国の新しい施策が展開されていることから、教育行政にあっては、子供、学校、社会教育の現場の状況を丁寧に見守り、問題解決に当たること。2点目は、文化財など単年度では評価しづらい項目は、中長期的なスパンで進捗状況を評価するなどの試みを検討してほしいというような御意見をいただいた。

最後には、教育委員会としてのまとめを記述しており。これらの内容については、11月の18日に開催した定例の教育委員会で御承認をいただいたので、本日の総合教育会議で市長への報告をさせていただき、12月の定例市議会の教育福祉委員会へ報告をさせていただいた後、市のホームページで公開をさせていただきたい。